

書 評

『図解 PubMedの使い方』第3版

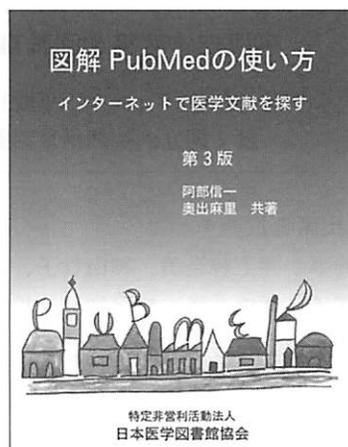
インターネットで医学文献を探す

阿部信一、奥出麻里／共著

東京 日本医学図書館協会

2006年3月5日発行

A4版 91p 定価 2,000円



数年前の6月、当協議会を中心とする病院図書館員の一人として、京大大学院医学研究科の「EBM ワークショップ」に文献検索の側面で協力する機会があった。PubMedを中心とした検索実習を、司書の立場から院生を支援する役割である。このとき、普段使っていない機能を習得するため、PubMed ホームページに掲載されている PubMed Help のマニュアルを、不慣れな英語に悪戦苦闘しながら読み返した。本書の初版が発行される直前のことであった。

初版を手にしたときの印象は、リング綴じのA4版に使いやすさを、大きめの文字と図・表にわかりやすさを、表紙のかわいいゴジラのイラストに親しみやすさを感じた。そして本文をくまなく読み通したとき、PubMed Help では理解できなかったさまざまな部分が明瞭になった。発行時期がもう1カ月早ければ、PubMedを総合的に把握することができたのに残念に思った次第である。

PubMed機能の進化には目を見張るものがある。それに伴い、「図解 PubMedの使い方」も最新の内容へ改訂され、第2版が2003年、そして本書第3版が2006年3月に刊行された。各版を比べてみると、本の構成に変更はないが、内容において、第2版から新たに第6章「PubMed周辺の情報源」が追加された。また、製本が初版のリング綴じから第2版では中綴じに変わっている。いずれもフラットに開くので、実用書として大変使いやすい。

日常 PubMed を利用していても、その原点や構造を知っている人がどれほどいるだろうか。本書の第1章では、PubMedの成り立ちに始まり、そのデータ構造や画面の名称など、PubMedの基本が詳しく解説されている。第2章「簡単検索」および第3章「検索結果の表示・印刷・保存」は、PubMedの基礎編に当たると言えよう。単純にキーワード・著者名・雑誌名を入力ボックスに入れ、検索した結果を表示し、印刷し、保存する方法がわかりやすい図解で説明されている。PubMedのテクニックをもっと極めたいときは、第4章「活用テクニックQ&A」と第5章「MeSHを使った検索」へ進み、さらに「PubMed周辺の情報源」まで詳しく知りたい場合は第6章へというように、初心者から経験者までレベルに合わせ活用できるのが本書である。わからないところだけを調べるのも良いが、初心者、とくに図書館員は最後まで一読し、PubMedの全体構造をしっかりと理解することをお勧めする。

ところどころに挿入されているコラムは、検索上のヒントや知識などを提供しており役立つだけでなく、読み物としても興味深い。

なお、発行元 日本医学図書館協会のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmla/>) に、第3版発行後の補足情報・PubMedの変更点が掲載されサポートされている点は、大変ありがたいと思う。

(松本純子／住友病院医学図書部)